



インフォ・マート

Info Mart

(自主公演のチケットのお求め・お問合せはこちらへ) 04-2998-7777 | <https://www.muse-tokorozawa.or.jp>



ベートーヴェン『第九』を紐解く
佐渡 裕 [指揮] ▼ P1



ケルティック・クリスマス in 所沢 2023

▼ P5

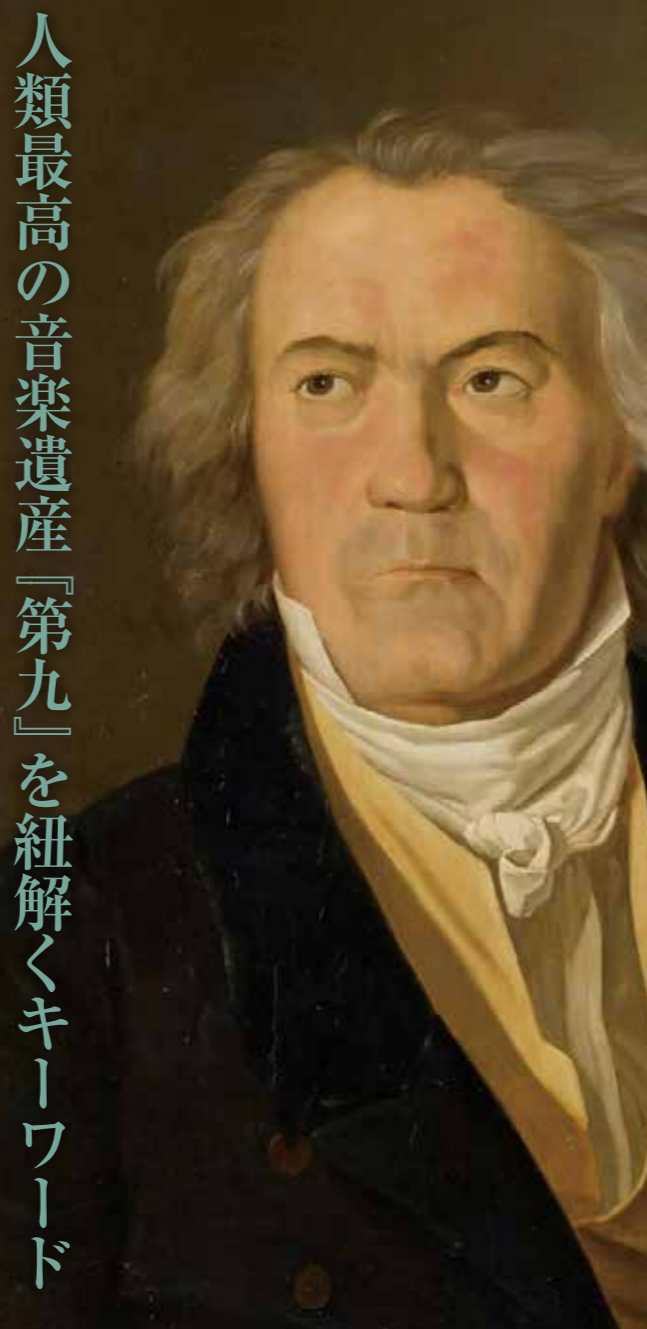
シルク・ドゥラ・シンフォニー

▼ P3

FEST/SPIEL/HAUS/
ST/POELTEN/

ベートーヴェン『第九』

佐渡裕「指揮」&新日本フィル



1823年の肖像画

人類最高の音楽遺産『第九』を紐解くキーワード

Keyword 1 故郷のボンから音楽の都ウィーンへ

ベートーヴェンは1770年にドイツの歴史深い街ボンに誕生した。幼くして音楽的才能を発揮したベートーヴェンだが、幼少期は幸福とはかけ離れていた。アルコール中毒の父が息子に虐待とも言える苛烈なスパルタ教育を施し、神童として金儲けをしようと画策したからだ。そんな危機を乗り越え、優れた音楽家に成長したベートーヴェンは、1787年にウィーンで敬愛するモーツァルトに出会い、才能を認められる。しかし、この時は愛する母の危篤により故郷ボンへ戻らなくてはならず、モーツァルトへの弟子入りは叶わなかった。

Keyword 2 交響曲の革新の歴史―「第九」の構想

29歳で完成させた交響曲第1番に始まり、ベートーヴェンが生涯に残した9曲の交響曲は、「古典派時代の交響曲の革新の歴史」と言えるほど重要な意味を持つ。スケルツォ楽章の導入(第2番、50分におよぶ未曾有の規模(第3番「英雄」、主題動機の徹底的な展開(第5番「運命」、5楽章構成と鮮烈な自然描写(第6番「田園」、そして交響曲への声楽の導入とロマン的な表現の深化(第9番)など、数えきれない革新が成し遂げられた。特に「第九」の瞑想的な第3楽章、シラーの詩と音楽を融合させた第4楽章「歓喜の歌」は、後の作曲家に計り知れない影響を与えた。ベートーヴェンがシラーの「歓喜に寄せて」に出会ったのは「第九」の初演から32年も前の1792年。ベートーヴェンはこの詩と出会ってすぐに音楽をつけたと考えたが、当初はこの詩を交響曲に盛り込むという構想はなかったようだ。しかし、30年を超える創作活動の中で「歓喜に寄せて」は「第九」の終楽章へと結実するのだ。「第九」が本格的に着手された当初、第4楽章は声楽を含まない通常の器楽のみの楽章で、「歓喜に寄せて」は次の交響曲(第10番?)に使用するつもりだった。しかし、様々な事情で「9番」と「10番?」の2曲の創作を断念し、それらの素材を統合して現在の「第九」の形にまとめられたというのが通説である。当初の器楽のみによる第4楽章は、後に弦楽四重奏曲第15番の第5楽章に転用された。

Keyword 3 全人類を魅了する『第九』の魅力

「第九」の初演は1824年5月7日。ウィーンのケルントナーア劇場で、作曲家立会いのもと行われた。ウィーンの聴衆には受け入れられないのではないか、という作曲者の不安とは裏腹に好評をもって迎えられた。耳が聞こえないベートーヴェンをアルトの歌手が喝采する聴衆の方へ向かって、ベートーヴェンは初めて成功に気づいたという逸話がある。初演から200年を経てなお輝きつづける「第九」の魅力はどこにあるのだろうか。今回、新日本フィルの音楽監督

1790年、20歳になったベートーヴェンはボンに立ち寄ったハイドンにも才能を認められ弟子入りを許される。そして、ヴァルトシュタイン伯爵の援助により、ついに音楽の都ウィーンで活動しハイドンに師事する機会を与えられる。故郷を離れウィーンへと旅立つ際に伯爵が贈った言葉が感動的だ。「親愛なるベートーヴェン!君は夢を叶えるためにウィーンへ行くのだ!たゆまぬ努力により、モーツァルトの魂をハイドンの手から受け取りたまえ!」ウィーンで活動を開始したベートーヴェンは、師であるハイドンとは性格の違いからぎくしゃくした関係が続いたようだが、瞬間に作曲家として頭角を現し、ウィーン屈指の技巧派ピアニストとして名声を博すのである。

としてタクトをとる名指揮者、佐渡裕は「1〜3楽章まで全てが4楽章に向かっている。そしていよいよ歓喜の歌の世界に到達し、「すべての人類が兄弟になる」と平和のメッセージを歌いあげる。しかし、同時にそう簡単に平和が実現しない現実もこの曲は訴えている。いまでも続く戦争や分断などを前に、曲の誕生から200年を経ても色あせないどころか、現代を生きる我々がいまこそ歌いあげなければならぬ強いメッセージを持っている」と語る。

さらに佐渡裕は、未曾有の被害となった2011年の東日本震災の3日後に、デュッセルドルフ響とケルン放送響から「第九」の指揮を依頼され「この悲しみのどん底で、歓喜の歌?」と驚いた経験がある。しかし、話を進めるうち「苦しい時、辛い時こそ、人を励まし、平和を祈る曲なのだ」と改めて教えられたという。人間の根源的な感情を揺り動かし、平和を希求し続けるという普遍的なメッセージ。誰よりも、生きる苦しみを知るベートーヴェンだけに、なした「鳴り響く思想」を全身で感じていただきたい。

佐渡裕「指揮」 新日本フィルハーモニー交響楽団 ベートーヴェン:交響曲第9番「合唱付き」

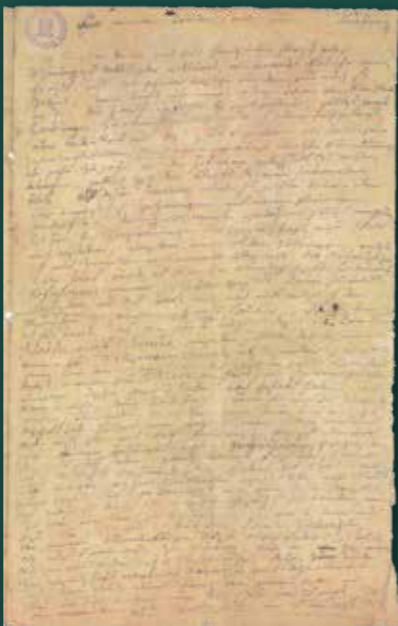
12月14日(木) 18:15開場 19:00開演 **好評発売中**
アークホール
料金◆全席指定 S席¥8,500 A席¥7,500 B席¥6,500 P席¥6,000
メンバーズ特典 S席¥7,300 A席¥6,500 B席¥5,700 P席¥5,300
曲目◆ プラームス: コラール前奏曲「一輪のバラが咲いて」[Org]
J.S. バッハ: トッカータとフーガへ長調 BWV 540 [Org]
ベートーヴェン: 交響曲第9番 二短調 作品125「合唱付き」
出演◆ 高野百合絵 [ソプラノ] 清水華澄 [メゾ・ソプラノ]
笛田博昭 [テノール] 平野和 [バリトン]
栗友会合唱団
原田真侑 [オルガン]



※未就学児の入場はご遠慮ください。
※都合により出演者・曲目の一部が変更になる場合がございます。

Chronology of Beethoven's life

- 1770年(0歳) ドイツのボンに生まれる。
- 1773年(3歳) 幼くして音楽的才能を発揮。アルコール中毒の父の苛烈なスパルタ教育が始まる。
- 1787年(17歳) ウィーンで尊敬するモーツァルトに会い絶賛されるが、母の危篤による故郷ボンに戻る。
- 1792年(22歳) ヴァルトシュタイン伯爵の支援でウィーンでの活動を開始。ハイドンに弟子入りするも、性格が違いすぎる二人は、師弟としてはあまりうまくいかなかったようだ。**シラーの詩「歓喜に寄せて」に出会い感銘をうけ音楽化を構想する。**
- 1795年(25歳) 初めての作品集「ピアノ三重奏曲作品1」を初演。ピアノ協奏曲第1番・第2番を初演。楽都ウィーン随一のピアニストとして人気を集める。
- 1799年(29歳) 難聴の症状が悪化する。
- 1800年(30歳) 交響曲第1番を初演。
- 1802年(32歳) 難聴に悩み「ハイリゲンシュタットの遺書」を書く。「私を死から引き留めているのはただ芸術だけだ」
- 1804年(34歳) 交響曲第3番「英雄」を完成。
- 1808年(38歳) 交響曲第5番「運命」/交響曲第6番「田園」初演。
- 1810年(40歳) ほとんど耳が聞こえなくなる。
- 1812年(42歳) 交響曲第7番/交響曲第8番を完成。
- 1815年(45歳) **交響曲第9番の作曲を開始。**
- 1824年(54歳) **交響曲第9番が完成。ケルントナーア劇場で初演。**
- 1827年(57歳) 体調が悪化。病中で交響曲10番に着手するも肝硬変のため死去。葬儀には2万人もが参列した。



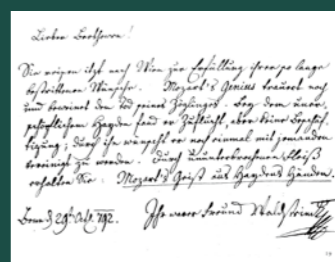
音楽家として難聴に絶望してしたためた「ハイリゲンシュタットの遺書」



1821〜23年に温泉保養地バーデンで「第九」の作曲の大半が進められた



1817年にはマイヤー・アム・プファールプラッツに滞在し「第九」の作曲を進めた



ウィーンへの旅立ちに際しヴァルトシュタイン伯爵が贈った感動のメッセージ



ベートーヴェンの自筆による「第九」の楽譜【ベルリン州立図書館】



新日本フィルの音楽監督として新時代を築く世界的名指揮者・佐渡裕



1827年のベートーヴェンの葬儀。シュベルトなど2万人もの人々が参列した



20代後半から難聴の症状に苦しんだベートーヴェンが使用した補聴器



「第九」が初演されたケルントナーア劇場。初演は温かく迎えられた

Cirque de la Symphonie

シルク・ドゥラ・シンフォニー



2018年、2020年の日本ツアーで大旋風を巻き起こした《シルク・ドゥラ・シンフォニー》
サーカスとオーケストラが融合するという斬新なステージの魅力に迫る!



舞台上を優雅に舞う息の合った美しいパフォーマンス



演技者の肉体を駆使した彫刻・絵画を彷彿させるバランシング・アクト



ロープを自在に移動するハラハラドキドキのエアリアルロープ



バーンスタイン、小澤征爾の薫陶を受けた名指揮者ジャジュラ



文化大国ウクライナが誇る名門ウクライナ国立フィルハーモニー交響楽団



観ている人を笑顔にさせる軽快で愉快的なジャグリング



天上から吊るされた布を使った自由な空中演技エアリアル

全国でチケット完売が続出！
音楽ファンをも唸らせる演奏と
スリリングな演出の数々！
エアリアルと言われる空中で繰り広げられる
演技に説明は不要だろう。写真の数々をご
覧の通り「これをごっやってオケの頭上でやる

の!?というスリリングな演技が連発される。この圧倒的な空中ショーにシンクワするのが、名指揮者ジャジュラが放つ「カルメン」「威風堂々」「剣の舞」など誰もが知る名曲の壮大なライブ演奏だ！
1961年にキーウに生まれたジャジュラは、数々の指揮者コンクールで頭角を現し、バーンスタイン、小澤征爾、プレヴィンの薫陶を受けた東欧屈指の名

ミュージズ初登場！サーカス & オークストラ!!世界が絶賛する最高のエンターテインメント！
Cirqueとはフランス語で「サーカスの意」。シルク・ドゥラ・シンフォニーは、直訳すれば「交響楽のサーカス」ということになる。大胆極まりないこの組み合わせは、2006年にアメリカで誕生した。パフォーマンス集団《シルク・ドゥラ・シンフォニー》のメンバーは、元オリンピック選手やシルク・ドゥ・ソレイユなど有名カンパニーの出身者も含まれるなど、世



指揮者。1996年以来25年以上にわたり音楽監督としてウクライナ国立フィルハーモニーを率い、ヨーロッパの一流の歌劇場に数多く客演し多くのオペラやバレエを成功に導いてきた巨匠中の巨匠。こんな時にこそ音楽の力を「という楽団員の強い思いをのせた熱い音楽を感じてください。

日本では2018年に初めて全国18公演ツアーが実現したのだが、そこではなんとプロデューサーの粘り強い交渉により、東欧随の名門ウクライナ国立フィルハーモニー交響楽団との共演が実現したのでオーケストラのメンバーは、サーカスの圧倒的なパフォーマンスとスリリングさに驚嘆し、またサーカスのメンバーも文化大国ウクライナが誇る一流オケの底力を目の当たりにして、両者が意気投合したという。
コロナ禍直前の2020年1〜2月にも日本ツアーを大成功させた両者だったが、2022年2月に開始されたロシアによるウクライナ侵攻がウクライナの豊穡な文化を破壊してしまう。避難所となった歌劇場やコンサートホールが攻撃を受ける映像をご記憶の方も多いだろう。
今回のツアーでは、オーケストラが本当に来日できるのか直前まで交渉と調整が進められたが、首席指揮者のジャジュラを始め楽団員の「いまこそ芸術の力を」との思いは強く、移動手段など安全確保の様々な対策が練られたうえで、みたび両者の共演が実現することになったのだ！

界最高峰の演技水準を誇る。そしてまたこれまで共演してきたオーケストラが凄く「フィラデルフィア管弦楽団、シカゴ交響楽団、ボストン・ポップスなど、いわゆるアメリカのBIG5が含まれ、さらに国境を越えてシドニー交響楽団やロシア国立交響楽団など世界のトップオーケストラが名を連ねている。
文化大国ウクライナが誇る最高のオケが来日！芸術の灯を消さない！
いまこそ音楽の力を！

Cirque de la Symphonie シルク・ドゥラ・シンフォニー ウクライナ国立フィル

2024年1月3日(水) 13:15開場 14:00開演		
アークホール		
料金◆全席指定	SS席¥12,500	S席¥11,000
	A席¥9,000	B席¥7,000
メンバーズ特別		
全席指定	SS席¥11,000	S席¥9,500
	A席¥8,000	B席¥6,000

好評発売中



※3歳までのお子様のお入場不可。

Lúnasa
ルナサ



HUMBERT
ハンバート HUMBERT



Dervish
ダーヴィッシュ



心温まる郷愁 躍動感溢れるリズム

幻想と神秘に包まれたケルト音楽の祭典!

ケルティック・クリスマス

Celtic Christmas in 所沢

David Geaney

デイヴィッド・ギーニー



スペシャル・ゲストにハンバート・ハンバートの追加出演が決定!

「ハンバート・ハンバート」が
出演決定! ロビーイベントも
盛りだくさん!

「顎が外れるほどの超絶技巧」(英ザ・タイムズ)と評されるほどの前人未到のテクニクと卓越したセンスの超一級パフォーマンスを披露するのは、数々の大会でタイトルを総なめにする新次元のダンサー・デイヴィッド! 高い跳躍と完璧なまでのステップは、誰もが釘付けになること間違いなし! 世界 No.1 のアイリッシュ・ダンスを是非間近にお楽しみいただきたい。

アイリッシュダンス
世界選手権5度優勝!
「デイヴィッド・ギーニー」

ウルなどでもコンサートを行うなど、圧倒的なアンサンブルとエネルギー溢れるステージで世界の聴衆を熱狂させている。

2019年には名誉あるBBCフォーク・アワードにて特別功労賞を受賞。また、アイルランドの首相と共に中国を訪問して政府首脳の前でパフォーマンスを披露するなど、真正正銘の国を代表するバンドとして支持されている。その成熟した比類なきサウンドは、アイルランド伝統音楽の根幹を受け継ぎ、世界中の多くのファンから愛されている。

1989年に結成され、30年近くに渡りケルト音楽界を牽引してきた「ダーヴィッシュ」。マンドリンの名手ブライアンが中心となり、女性ヴォーカル・キャシーの心に染みる美しい歌声と、アイルランド・チャンピオン受賞の実力者を含むメンバー(フルートのリアム、アコーディオンのシェーン、フィドルのトム、ブズーキのマイケル)の躍動感あふれる力強い演奏で、人々を魅了し続けている。

アイルランド最高峰
鉄壁のアンサンブル
「ダーヴィッシュ」

ミュージズでは6年ぶりの開催となる「ケルティック・クリスマス」。アイルランドから待望の来日を果たすラッド・バンド「ダーヴィッシュ」「ルナサ」と、世界の名だたる賞を総なめにしてきているアイリッシュ・ダンサー「デイヴィッド・ギーニー」が初登場! スペシャル・ゲストに「ハンバート・ハンバート」が登場! 懐かしさ漂うサウンドと、洗練されたパフォーマンスで特別な一夜をお届けします。

ケルティック・クリスマス in 所沢2023

2023年 12月3日(日) 15:15開場 16:00開演
アークホール **好評発売中**
料金◆全席指定 S席 ¥5,800 A席 ¥4,600
◆メンバーズ特割 S席 ¥5,200 A席 ¥4,000

※12:50~ロビーにてケルト市・ワークショップなどのイベントあり
※未就学児の入場はご遠慮ください。



ミュージズへはこれまで何度度も出演し、毎回ケルト音楽のアーティストたちと素敵な共演を見せてきた。ケルト音楽を愛する二人が、今回はダーヴィッシュと共演し、特別な一夜に彩りを添えてくれるだろう。

さらに、今回はロビーでのイベントが目白押し! 貴重なケルトグッズの販売や、アーティストによるワークショップ、そして終演後のセッションも予定している。

この冬は、皆で集い、戯れ、ケルトの音楽を心ゆくまで楽しもう!!

1996年、当時のアイルランド音楽シーンの第一線で活躍する実力派ミュージシャンにより結成され、アイリッシュ・ミュージックの「ドリーム・チーム」として話題を呼んだ「ルナサ」。

メンバーは、アルタンやザ・チーフタンズとの共演でその名を轟かせたフィドルのショーン、温かいフルートの音色が抜群のケヴィン、アイリッシュ・ミュージックの新しい境地を開拓しているベジストのトレヴァー、そして2000年にパイパーのキリアンが加わった。メディアから「聞くもの心動かさずにはいられない。骨の髄までドキドキさせ、ワクワクさせ、感動させてくれる」(英フォークルーツ紙)とまで絶賛され、「スーパー・スーパースター」と呼ばれるほどの超実力派集団。栄誉ある音楽賞を多数受賞し、NYのカーネギーホール、LAのハリウッドボ

圧倒的なアンサンブルと
エネルギー!!
超実力派バンド「ルナサ」

Lobby Session ロビーセッション



公演に合わせて、ワークショップや楽器自由のロビーセッションも開催! 楽しさ200%でご参加下さい!

ハンバート ハンバート



2017年ミュージズ「チーフタンズ」公演にて、リーダーの故パティ・モローニと共演するハンバート・ハンバート。

David Geaney デイヴィッド・ギーニー



初来日となるデイヴィッド・ギーニー。新次元と言われる世界チャンピオンのダンスは必見!

Lúnasa ルナサ



来日を心待ちにするルナサのメンバー。アイルランドのバーにて、名物「ギネスビール」で乾杯!

Lúnasa ルナサ



2006年来日時、5人とは思えぬ力強いパフォーマンスで、会場を熱狂の渦に包んだ。

Dervish ダーヴィッシュ



ダーヴィッシュの長年の活動が認められ、BBCの名譽あるフォーク・アワードにて特別功労賞を受賞。

Dervish ダーヴィッシュ



2015年日本ツアーでは、唯一無二のアンサンブルと匠な演奏で魅了した。

ステージレポート

Stage Report

6月17日
~7月29日

2023 6/17
(土)

ティボー・ガルシア [ギター]

〈キューブホール〉
曲目/ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ
第14番《月光》より 第1楽章
バリオス:大聖堂 ほか



ティボー・ガルシア [ギター]

18
(日)

フジコ・ヘミング ピアノソロコンサート

〈アークホール〉
曲目/リスト:ラ・カンパネラ ほか
フジコさんの代名詞「ラ・カンパネラ」など、慈愛に満ちた温かい演奏に、満員の客席から大きな拍手が贈られました。終演後には、アツ〜いキスマーク入りのサイン色紙をプレゼントしていただきました!色紙はミュージズのツイッターにアップしておりますので是非ご覧ください!



フジコ・ヘミング ピアノソロコンサート

24
(土)

ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団 ラハフ・シャニ [指揮] 藤田真央 [ピアノ]

〈アークホール〉
曲目/ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第3番 二短調 op.30
ブラームス:交響曲第1番ハ短調 op.68



ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団

25
(日)

オリヴィエ・ラトリー [オルガン]

〈アークホール〉
曲目/ワーグナー (ルメア編):歌劇『さまよえるオランダ人』序曲
J.S. バッハ:トッカータとフーガ 二短調「ドリア調」
BWV538 ほか



オリヴィエ・ラトリー [オルガン]

7/9
(日)

カニサレス 至高のギター・リサイタル

〈キューブホール〉
出演/ファン・マヌエル・カニサレス [ギター] ファン・カルロス・ゴメス [セカンド・ギター]
曲目/ロドリゴ:『アランフェス協奏曲』より第2楽章アダージョ「アランフェス・マ・パンセ」、カニサレス:『地中海組曲』ほか



カニサレス 至高のギター・リサイタル

15
(土)

小山実稚恵 [ピアノ] 《華麗なるコンチェルト》 NHK 交響楽団× 広上淳一 [指揮]

〈アークホール〉
曲目/ブラームス:ピアノ協奏曲第1番 二短調 Op.15
ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第3番 二短調 Op.30



小山実稚恵 [ピアノ]

17
(月・祝)

地中海が生んだコスモポリタン・バンド ライト・イン・バビロン

〈キューブホール〉
出演/ミハル・カマル [ヴォーカル/パーカッション]
メテハン・チェフチェ [サントウール/サンスラ]
ジュリアン・デュマー [ギター]
曲目/イスタンブール(トルコ伝統曲)、ジブシー・ラブ(ユダヤ人伝統曲)、久石譲:君をのせて ほか



ライト・イン・バビロン

19
(火)

第115回所沢寄席 柳亭市馬・春風亭昇太 二人会

〈マーキーホール〉
出演/柳亭市馬、春風亭昇太、
江戸家猫八 [動物ものまね]



第115回所沢寄席

22
(土)

人形劇『はらぺこあおむしショー』

〈マーキーホール〉
出演/劇団飛行船
演目/『はらぺこあおむし』(もりひさし訳) ほか3作



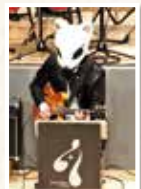
人形劇『はらぺこあおむしショー』

29
(土)

ズーラシアンブラス・ジャズ&ヘリテイジ

〈マーキーホール〉
出演/ズーラシアンブラス ジャズオーケストラ
曲目/ベッパー警部、
アイ・リメンバー・クリフォード、
イン・ザ・ムード ほか

お馴染みズーラシアンブラスによるジャズ公演!ジャズの名曲はもちろん、昭和歌謡からアニメ曲までジャズアレンジでお届けしました。また本公演で、ギターの“オコジョ”さんがデビュー☆年末のジルベスターコンサートにも期待が高まります。



ズーラシアンブラス・ジャズ&ヘリテイジ

写真撮影(市民カメラマン)/三平資郎(6/18、7/15) 佐藤清一郎(6/17、7/17) 滝島利男(6/24、7/29) 津田資雄(6/25、7/19) 中村仁(7/9) 西山元博(7/22)

スタッフのつぶやき

今年是一段と暑い日が続きましたが、いかがお過ごしでしょうか。下半期のラインナップも続々と発表され、我々は“芸術の秋(残暑・冬)”に向けて着々と準備を進めております。中でもイチョシは30周年ミュージズ感謝祭でしょうか!豪華アーティストによる公演はもちろん、様々な企画をご用意して皆さまをお待ちしております。一緒に30周年をお祝いしましょう!! (W)

チケットのお問合せは……ミュージズチケットカウンター

04-2998-7777

●窓口・電話予約10:00~18:00 ※休館日を除く

●インターネット予約

所沢 ミュージズ

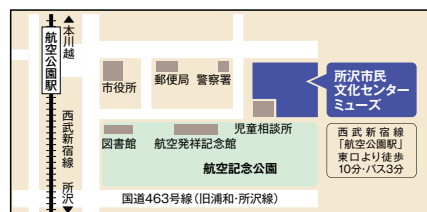
検索



クラシック・ポピュラー・演劇・寄席など多彩で魅力溢れる公演を開催しております!

詳細はミュージズホームページでご確認ください。

<https://www.muse-tokorozawa.or.jp>



*公演情報は2023年8月27日現在のものです。曲目・出演者の変更やチケットが売切れとなる場合がございますので、ご了承ください。

次回のインフォ・マートは2023年11月15日発行予定です。どうぞお楽しみに。